

助成者	森井 真理子	活動期間	2020年4月～2024年3月（2021年度は休止）
所属機関	認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	職名	理事

動物を通じて次世代の子どもたちが考えるボルネオの自然環境問題

～ICTを利用したマレーシアと日本の子どもたちの対話型遠隔教育～

【活動場所】マレーシア国サバ州と日本の6つの動物園

【事業目的】マレーシア（サバ）と日本の動物園スタッフが「ゾウ」を題材として行っている環境授業を、ICTを活用して日本とマレーシアを繋ぎ、子どもたちへ新たな環境教育を展開する。ゾウ生息地はパーム油プランテーション開発問題を抱えており、子どもたちが映像や対話、意見交換を通じて、ボルネオの自然環境問題を知り、自分ごととして関心をもつことを目指す。



【活動内容】

- ①日本とマレーシアの動物園関係者の情報交換：豊橋動物園のゾウのトレーニング・アニマルガイドの模様とロッカウイ野生動物公園のジャングルツアーの模様をライブ中継。
- ②小学生5～6年生対象の豆本テキスト「アブラヤシとボルネオゾウの暮らし」の作成。写真を大きくとり入れた分かりやすい日本・マレーシア共通テキストで各1000部作成。
- ③「ボルネオゾウのレスキュー大作戦」3回連続ワークショップの開催：日本とサバを繋いでのワークショップでマレーシア側計48名、日本側計47名が参加
- ④世界ゾウの日（8/12）に子どもたちの描いた作品を各動物園で展示。

【活動状況】

1年目の活動はコロナで子どもの動物園への来場ができなくなり、両国の動物園関係者による環境教育の情報交換が中心となった。1年間の活動休止を挟み2年目は、日本とマレーシアを繋いだワークショップを開催し、完成した豆本テキストを活用した。ワークショップではICT利用による進行面での課題が見い出され、3年目はよりスムーズなイベント運営を目指す。